

【テーマ】

新潟県及び佐渡市の森林利活用による地方創生2.0の推進について

【背景】

日本は国土の約7割を森林が占める森林大国であり、昭和30年代頃までは森とともにある暮らしが実践されていた。しかし、低コストな外材の輸入増大や電気・ガスなど生活インフラの整備により薪炭材などの需要が落ち込み、森は日本人にとって縁遠い存在となってしまった。現に、国民の2人に1人しか年に1回以上、森林に足を運んでいないとのデータがある。しかしながら、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、森林の利活用は必要不可欠である。新潟県はSDGs未来都市に選定され、佐渡市はSDGs未来都市・地域循環共生圏・脱炭素先行地域に選定されている。今後は森林の防災減災、観光活用も含めて、産官学金労言の連携により地方創生2.0に取り組んで行かなければ、カーボンニュートラルの実現は不可能である。

【目的】

新潟県産材・佐渡産材の利活用を促進し、木材自給率を向上させ、川上・川中・川下の連携を推進することにより、県内における林業の活性化を図る必要がある。また、成長した木材を伐採・活用することで、森林資源の循環利用を促進しなければならない。加えて、木材生産のみならず、水源涵養、土砂災害防止、生物多様性保全など、森林の多面的機能を再認識する機運を高めるべきである。そして、森林資源を活用した観光プラン・商品開発等により地域経済を活性化させ、林業に携わる人々の雇用創出や、地域の成熟につなげる必要がある。その上で、都市への人口流出と里山の文化を見直すべく、森林資源の適切な管理と利用により、持続可能な社会が実現できると考える。

【経済】

森林の多面的機能は、70兆円の価値・働きがあるという試算がある。日本の森林面積は約2,502万ヘクタール=25万km²で、日本の国土の67%。70兆円÷25万km²=2.8億円/km²

新潟県の面積12584km²のうち、8551km²（68%）が森林であり、人工林面積1611km²（13%）。

8551km²×2.8億円/km²=2.4兆円

∴新潟県の森林には、2.4兆円の価値がある試算となる。

佐渡市の面積855km²のうち、608km²（71%）が森林であり、杉の人工林は、約1万ha=100km²（12%）で、伐採の適齢期を迎えている。

608km²×2.8億円/km²=1,700億円

∴佐渡市の森林には、1,700億円の価値がある試算となる。

また、木材は年間1億立方メートルの成長が見込まれる貴重な循環資源である。理論上、国民1人あたり年間1立方メートル弱の活用が可能となる木材資源が生まれていることとなる。

【取組】

① 公共建築物等における木材利用の促進

公共建築物等において、積極的に木材を利用することで、木材需要を喚起する。例えば、佐渡汽船の新ターミナルビルを佐渡産木材CLTで建設することや、公共建築物や空き家等のリノベーションの際に内外装を佐渡産木材で木質化することも効果的である。元ゴルフ場の再活用としてグランピング施設の整備や、フォレストアドベンチャーの体験など、森林に親しめるアミューズメントパーク化をできれば良い。

②新たな木材利用の開発

木材の新たな利用方法や用途を開発することで、木材需要を拡大させる。例えば、主伐材・間伐材をカスケード利用して、商品開発310点、ふるさと納税で+3, 100万円の収入増を目指す。伝統文化と環境福祉の専門学校等と連携して、カリモクならぬサドモクブランドを立ち上げ、佐渡産木材を活用した家具・什器・木製品の制作・販売を行う。

③森林管理の推進

森林の適切な管理を行い、森林の持つ多面的機能を維持・向上させ持続可能な森づくりを推進する。佐渡には、クマやイノシシなどの大型動物がいないので、安心して森を楽しむことができる（マムシやスズメバチには要注意）。また、シカがいないため、植林後の新芽や木の皮などを食い荒らされる心配もない。逆に、本土ではジビエの料理や缶詰・レトルトなどの推進が森を守ることにもつながる。例えば、どんぐりの森では、森林浴、チェアリング、読書会、コンサート、フォレストアドベンチャーなど照葉樹林文化を楽しみ、森に行こう！という機運を醸成することができると思う。

【参考リンク】

▼BS TBS「関口宏のこの先どうなる!？」テーマ「林業」

<https://bs.tbs.co.jp/konosaki/archives/036/>

▼漫画で楽しく学ぶ森林・林業・木材産業の魅力

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/tosyo/manga.html>

▼照葉樹林文化圏

<https://suido-ishizue.jp/daichi/part1/01/03.html>

<https://www.shinrinbunka.com/wp-content/uploads/2017/03/264371489f149753a801565ea827ac72.pdf>

▼佐渡島（さど）の金山（2024年7月27日）

※正式な認定は2024年7月31日

<https://www.city.sado.niigata.jp/site/mine/list98-451.html>

▼佐渡市環境教育副読本 指導書「佐渡島環境大全（改訂版）」より

<https://www.city.sado.niigata.jp/soshiki/2013/3218.html>

▼三つの森のかたち—天然林・二次林・人工林

<https://www.city.sado.niigata.jp/uploaded/attachment/17369.pdf>

佐渡島内では、アカマツの大量枯死がトキの営巣木減少を招くことが懸念されており、林野庁と新潟県が、小佐渡東部鳥獣保護区を対象として、数千本単位の樹幹注入を実施し、枯死したマツの伐倒と燻煙も併せて行っているが、ナラ枯れに対する対策はほとんど行われていないに等しい。佐渡の里山を健全な形に戻すには、森林利用のあり方や里山の維持管理主体のあり方といった根本的な議論を早急に行う必要がある。

※最終部分から一部抜粋

9. 佐渡島の森を私たちはどう扱っていくべきか

佐渡島の森は、ほとんどが人工林・里山である。これらはいずれも長年にわたる人の利用によって維持されてきた生態系なので、手入れをせずに放置すれば、上述のような不具合が発生し得る。手入れを怠った結果、樹木密度が飽和状態に達した森林では、個々の樹木が密度過多のために極端に生長速度を落としてしまうので、一見して緑が多いように見えても、実はCO₂吸収能力は低い（1本あたりの葉の量が少なく、根や幹の呼吸量で光合成量が相殺される）。生物多様性の保全も含めて考えれば、利用放棄後30～40年経過した佐渡島の里山は、「待ったなし」の危機的な状況に直面しているといえる。とくに里山の問題は、それが民間の森林である以上、行政が何かをしてくれるということはほと

んど期待できず、われわれが問題点を正確に把握して、自主的に対処していくしかない。この意味で、佐渡島の森林と生物群集を維持できるかどうかは、われわれ自身が行動できるかどうかにかかっているといっても過言ではない。現在われわれは「緑が多いことはよいこと」、「木を植えるのはよいこと」、「森は切ってはいけない」という道徳的概念を信じ込み、自然を神格化しすぎるあまり、その個々の本質や管理手法の違いに対してあまりに無頓着になっていないだろうか。「緑色」に囲まれていることだけで「自然に恵まれている」と誤解していないだろうか。われわれのこうした思い込みこそが、佐渡島の野生生物にとって最大の脅威であることを、集落の森の様子を観察して理解して欲しい（実習の手引き参照）。また、手入れを必要としている森があれば、それを集落の人々と相談しながら、少しでもいいので手入れしてほしい。タケや常緑低木に覆われた里山に明るさが戻り、そこに生き物たちが集うことを知ること、森が持続的な資源利用を行っていくためのエネルギー生産場所であることを知ること、地域の自然に携わる原体験が得られるだろう。

▼トキの野生復帰はどのように行われているのか

<https://www.city.sado.niigata.jp/uploaded/attachment/17375.pdf>

営巣木については、ねぐらに比べて選択条件が厳しくなる。営巣木に使われる木は、森林内のアカマツ、コナラ、ミズナラ、イヌシデ、クリなどの大径木で、樹種の選択性自体はあまり強くない。むしろ、トキのような大型の鳥にとって重要なのは、樹形と森林全体の中での空間配置である。営巣する際には、巣から見回した際に警戒が行き届くことや、巣への着地、巣からの飛翔の際に物理的な支障がないことなどが重要となる。トキがかつて営巣木として利用していた木は、森林内でも樹高がとくに高い個体（エマーゼントツリーという）で、その中でも枝が大きく側方に張り出したものを好んで利用し、林冠部の枝の根元付近に巣をかけていたとされる。佐渡島の里山では、薪炭林施業による反復伐採のため、コナラをはじめとする落葉広葉樹の樹高はおおむね 20m 以下と低く抑えられる傾向にあり、結果的にアカマツの大径木が林間から突出していることが多かった。このため、営巣木としてはアカマツの比率が高くなったものと考えられる。現状ではアカマツのマツ枯れによる大量枯死や、薪炭林放棄によるナラの密度過多、ナラ枯れによるコナラ・ミズナラの大径木枯死、タケや林床低木の繁茂など、ねぐら・営巣木確保に困難な要素がたくさんあり、間伐と森林防除によるねぐら・営巣木の整備は急務といえる。